



・神奈川県高校生メリーランド州派遣事業に2年次生 佐藤寧々さんが合格しました(全県8名)
3月16日(金)~3月22日(木) アメリカ メリーランドへ派遣されます。

センター試験へのチャレンジ(1月14日、15日)

1期生が本校初となるセンター試験へチャレンジし、その応援のため、教職員17名で「キットカット」そして「YSFHのぼり」を持って応援に駆けつけました。
「生徒全員の顔を見て、激励すること」が重要なので、開門に間に合わせるべく、7時45分に集合して行くと、生徒は少し恥ずかしそうにしながらも笑ってリラックスしてくれました。まだまだ続く大学受験、悔いのないように頑張ってくれたらと思います。



試験会場前にて:
生徒が来るのを待っています。



試験会場前にて:
生徒一人ひとりを激励しました。
キットカットにはメッセージが書いてあります。

カナダ大使館訪問(1月11日)

「バンクーバー姉妹校交流 事前学習」として、カナダ大使館を訪問させていただき、エリック・ピーターソンさん(一等書記官)と寺内 美佐子さん(学術交流担当補佐官)からカナダについてプレゼンテーション、質疑応答をしていただきました。



質疑応答(英語)の様子

(生徒感想)

・「どんな人種でもカナダ人」という日本にないような考え方があって、カナダの国家としてのすばらしさを感じた。

・私たちが日本とカナダの架け橋になるのだと言われ、自分たちがサイエンスの代表だと改めて実感しました。

Q.ホストファミリーとはどのように接すれば良いのですか。

A.礼儀正しく、尊敬の念を持って接すると良い。自分から話しかけるようにすること。

Q.人と話す時に注意することはありますか。

A.カナダではいきなり年齢、宗教や人種などプライベートな質問をしてはいけません。



トーマスジェファーソン サイエンス研修(1月4日~9日)

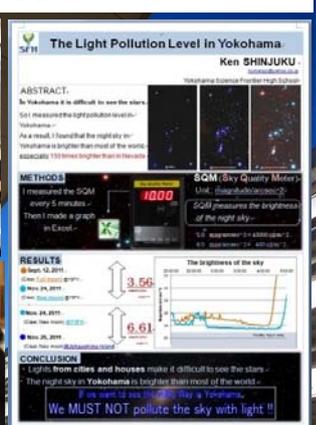
第10号で速報としてご紹介した「トーマスジェファーソン サイエンス研修」を、第11号では生徒感想を中心に伝えたい。海外での「ほんもの体験」を通して得た経験は、生徒の学習への意欲をさらに掻き立てるものでした。



学校紹介



ポスターセッション



(生徒感想)

実際に経験して自分の目で本物を見たときに得るものの質・量は、伝聞のそれとは圧倒的に違う。これからは本物を見てたくさんものを得るために、いろいろなプログラムに積極的に参加しようと思う。今回の研修を通して、今後改善していきべき課題も見つかった。英語力である。現地のフードコートなどで使われていた生の英語は、理解できない部分が多かった。教科書や速単のそれとはまったく違った。とにかく、速いのである。なので、海外サイトからPodcastをダウンロードして聴き、理解しようとするなど、ネイティブの人の話す速さについていけるように努力するのが大切だと感じた。また、語彙力・言い換えなども身に付ける必要を感じた。単なる受験対策ではなく、「実用性を意識したら受験にも役立つ」といえるような学習をしていきたい。

エリック・ピーターソンさん(一等書記官)より

・事前によく調べ学習をして大使館に来てくれたので、嬉しく思いました。また自ら積極的にスピーチしてくれたので、とても感心しました。生徒たちは思慮深く、意欲的で良い時間を一緒に過ごすことができました。

寺内 美佐子さん(学術交流担当補佐官)より

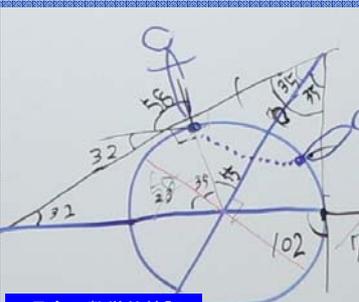
・英語に対して心を開いて、意欲的に取り組んでいる様子に感心しました。また、カナダから帰ってきたら報告に来てください。

和田サロン後期 (1月11日、18日)



月食観察の報告

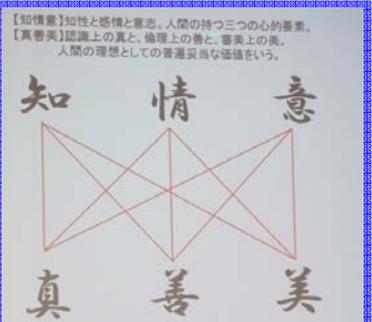
特別版
「天文部による月食観察の報告」



月食の数学的検証



「真善美と知情意」



天文部が月食観察の報告および「太陽、月の南中高度が32度、80度であり、太陽・地球・月が一直線になるのは想像しづらい。なぜ月食が起きたのか、理由を説明してほしい」という和田昭允常任スーパーアドバイザーからの事前課題を説明しました。生徒たちは数学的検証で見事に説明しましたが、「数学的検証も重要だが、それが全てではない」というご説明とともに「モデル化」について教えていただきました。それは「サイエンスでは全体と部分を常に意識する。複雑なもの考えるときは、まず重要なものに絞り、それ以外は除いたシンプルなモデルを作って考える」ということです。

「サイエンスと真善美の結びつき」をご説明いただきました。「学術、芸術、道徳は人間の精神的活動の知・情・意から始まった学問であり、サイエンスは学術の一つである。サイエンスは非常に客観的で、時に残酷であるが、その根底にあるのは人間の精神活動である。ゆえに、**科学者は常に「心」を持って研究すべき**」ということです。また、科学者に必要な要素は「数理的分析能力」「機械実験によって現象を系統化し、帰納する能力」そして「直観」であるということでした。ここでいう直観とは、「**自分の中の暗黙知をまとめる力**」です。

古川聡宇宙飛行士報告会(1月19日)

古川聡宇宙飛行士の報告会に本校生徒3名が登壇者として参加し、「宇宙での生活をおとして、これがあつたら便利だと思うロボットは何ですか」など、直接質問をさせていただきます。宇宙に関心を持つ生徒にとって素晴らしい時間となりました。



古川宇宙飛行士の報告

(生徒感想)

- ・最も印象的だったのは、古川宇宙飛行士の「目の輝き」です。夢を持ち続け、その実現に向けて努力を続けているからだと思いました。私も笑顔であり続けるため、自分の好きなことを見つけ、努力を継続していきます。
- ・「宇宙に行くこと」それは「夢物語」とされていましたが、人間はその「夢」を「現実」に変えました。つまり、現在の「夢物語」は将来の「現実」になる可能性を持ち、それこそがサイエンスの醍醐味です。私は「軌道エレベーター」を実現したいと考えています。

Saturday Science(1月7日)

「記憶の仕組み」 横浜市脳血管医療センター長 山本 勇夫 様

絵を使いながら、構造的に「記憶のプロセス」や「記憶の正体」をご説明いただきました。中でも生徒たちは「記憶力を向上させる方法」に興味をもち、「今後、試験勉強などで実践していきたい」という感想が多くありました。



(生徒感想)
・脳はまだ未知の部分が多く、そういった開拓の出来る仕事に携わってみたいです。

・今回の講義で記憶に関する脳・神経細胞の働きについて学び、記憶力を向上させる方法を学びました。疑問に思ったことは、死に際に見えるという「走馬灯」はあるのでしょうか。また、あるとすれば原理は忘れられない感情が関わっているのでしょうか。

桜道プロジェクト

シンガーソングライター オオゼキタクさんが作詞・作曲し、本校校歌の候補でもあった「桜道」のCDを卒業生に贈る「桜道プロジェクト」が進行中です。現在、(株)音楽館 向谷 実 様のご協力のもと、レコーディングやCDジャケット、レーベルの作成も終わり、最終段階に入っています。完成が楽しみです。



レコーディング中のオオゼキタクさん

レコーディング現場

『祝！YSFH 1期生卒業＆「桜道」発売記念ワンマンライブ』

日時：3月24日(土)昼14:00～夜18:00～
二回公演 ゲスト：向谷実(カシオペア)
場所：渋谷gee-ge <http://gee-ge.net/>
前売一般3,500円(+D) 学生2,000円(+D) 問 03-6416-3468
☆チケット予約 info@oozekitaku.com までお名前・枚数・学生の人数・昼夜どちらかを明記のうえお申込み下さい。担当者より詳細のご案内を返信致します。

Science Literacy I

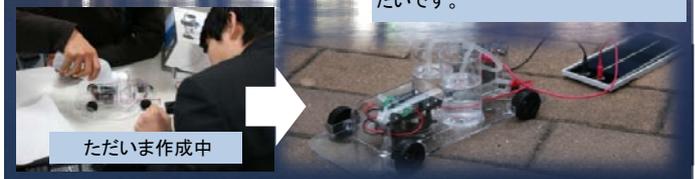
「地球環境問題に対する日産自動車の取り組み」 日産自動車株式会社 様

燃料電池自動車に関する知識を講義で吸収し、その後模型を組み立てることで理解が深まりました。生徒たちが非常に関心の高い分野でもあり、熱心に説明を聞いていました。燃料電池自動車に乗る機会もあり、全身で「知識」を吸収した一日となりました。



(生徒感想)
・燃料電池自動車は長距離走行に向いていないと思っていましたが、東京～福岡間を燃料補給2回で走行出来ると聞いて驚きました。

・燃料電池車内で水素が作れるようになれば、ガソリン車という「ガス欠」にはならないので永久的に走れると思いました。そのような技術を研究していきたいです。



ただいま作成中